

なごみ農園

今年、4回目の年男となります。百姓の道に入りはやいもので、16年経ちました。私は、偏屈ものです。

異業種から有機農家になる場合、たいていの人々は、最初から有機農家になろうと思いい農家になります。私の場合、普通の農家（農薬を使う）を目指し、修行を積んでいましたが途中で、進路変更して独立するときには、有機農家になりました。

農薬や化学肥料もよく使いましたし、その良さ、悪さもよくわかります。一つ言えることは、私は、農薬や化学肥料を使う農家には、一生ならいだろうなということです。今でも、生まれて初めて有機農家の畑に立った時のことは、忘れていません。まさしく直観でこれだと思った瞬間でした。



始めたころの
収穫風景



畑に生えるウシハコバ

5月豆とも言われるそらまめ。有機野菜の中でも、虫の付きやすい野菜の代表格。うちの畑では、実に付かないだけではなく、一番アブラムシの付く新芽の部分にもここ2年は、やっとなかなかなくなりました。秘訣な何かと聞かれることもありすが、それは、「何もしないこと」です。

すべての植物は、本来、育つ環境がぴったり合えば、有機肥料でさえも必要としません。

というより、有機肥料でも肥料に変わりはなく、余分なものです。この考え方に気づくまでに10年かかりました。自然は、自然です。人間のする不自然なことは、本当に無駄なことです。

農業においてだけでなく、生活すべてにおいて言えることだと思います。

先日、「自称「生き物がかり」といわれる生き物の専門家の方がうちの畑に来てくれました。

何人かで、うちの畑の草や虫を観察していましたが、この草は、「不思議と有機の畑にしか生えないです」「この草は、ハーブティにするととてもおいしいです」「この草は、食べるとおいしいです」「あの鳥は、何々です」などと言われました。

自分でも、普段草を食したり、薬用につかったりしますし、もつともつと使えるものが多いこと、また、貴重な草だということも教えていただきました。

生き物の多様性を活かすことで、貴重な生き物の住処ができ、さらに副産物も有機農家、自然栽培農家には、活かせるものが多いことを感じました。

廻りの方の理解も必要だと思いますが、何とか、「このような田んぼや畑が増えていけばな」と願います。

(2015年5月記)



収穫するソラマメ

なごみ農園 宮田 雅和

就農:平成14年3月 畑の場所:富士宮市 青木、馬見塚、外神、北山

栽培面積:畑160a 田20a 栽培作物数:200種類

主力作物:根もの、葉物、果菜類、穀類、ニンジンジュース

連絡先:homepage2.nifty.com/nagominouen

